

異次元の感謝(マルコ 14:66-72)

この頃になりますと、よく耳にする言葉が年忘れ、忘年というような言葉です。一年を忘れて締めくくろうという意味ではないでしょうか。そして、少しレベルアップしますと、それでも一年を振り返って、何かしら感謝を見つけて感謝で締めくくろうではないかという人たちもいます。しかし、忘れるよりは感謝のほうがマシかもしれません。問題は何を感謝してこの 2023 年を締めくくるかになります。クリスチャンの私たちはどのような感謝をもってこの年を締めくくるればよいのでしょうか。今日の聖書の箇所を見ますと、イエス様が逮捕された後、ペテロがイエス様から離れ、しかし、気になって近いところまで行きました。すると、ある女の人が「この人はイエス様の弟子なんだ。あのイエス様と仲間なんだ」とお話をしたら、その場で「いやいや。私は違いますよ」と否定しました。するとまた違う人が、「この人はナザレの人の群れの仲間ではないのか」と話したら？その時のペテロは「いや、違いますよ」と否定しました。三度目に「いやいや、あなたはイエスの弟子に間違いないよ」と話したら三度目はのろいをかけて誓いながら、「私はイエスとか、そういう人間は全く知りません」と否定しました。するとすぐに鶏が二度目に鳴いて、その時にイエス様が「あなたは鶏が二度鳴く前に私を三度否定するよ」とおっしゃったことを思い出して、それでペテロは泣き出したと書いてあります。ペテロはなぜそこで泣いたのでしょうか。私がイエス様を裏切ったということで泣いたのでしょうか。もちろんそういう面もなくはないでしょう。しかし、本当にそうなら堂々とその後もイエス様に従っていけばいいではないでしょうか。まだペテロにはいろんな困難があります。だからペテロが泣いたのはそのような信仰的なレベルというよりは、自分自身にあまりにも驚いて失望したからではないでしょうか。私はそんなこと絶対ありませんと誓っていたのに自分がそんな人間なのかということを見たわけです。そこで自分自身に驚いて、自分自身にあまりにも悲しんでペテロは泣いてしまったのではないかと推測することができます。しかし、ペテロは自分自身に驚いたでしょうけれども、実はそれがペテロなのです。ペテロは自分はそんな人間ではないと普段は思っていたでしょうけれども、そのことをきっかけにして表に現れただけなのです。このペテロの失敗を通して、2023 年、クリスチャンの私たちはどのように感謝をもって締めくくればよいのでしょうか。そのことを考えていきたいと思います。

1. 信者はいくら弱くても決して滅びない。

まず第一に、信者の私たちはどんなに弱くても、いくら失敗をしても決して滅びることはありません。このことを確認して感謝して 2023 年を締めくくろうではありませんか。

1) 信者にもあらゆる弱さが

私たちは神様の恵みによって信者になりました。それで教会に通うことになりましたが、信者にもさまざまな弱さを抱えて人生を生きています。まず信仰的な部分を見ますと、ある人は良い信仰者として歩んでいるでしょうけれども、自分は本当に教会に行くことで精一杯で、礼拝に恵まれるということは私とは程遠い話です。メッセージを聞いても何を語っているのか意味もよくわからないし、だから祈ろうとしても祈りがなかなかできないし、祈ろうという気持ちにもならない、そういう信者もいます。とにかく礼拝に来るということでもう精一杯なのです。ギリギリなのです。そのうちだんだんと興味がなくなり、信仰生活あるいは教会生活を長期間、休みを取る場合もあります。そこにはいろんなきっかけがあるでしょう。ある人は到底理解できない理不尽なことを経験して、「神様はいらっしゃらないのではないのか」と疑う場合もあるし、また元々なかなか恵まれないので、結局行く理由がよくわからないということで、教会を長い期間、休みに入る場合もあります。それは良いことではありません。しかし、今日、弟子の中で一番の弟子ペテロの失敗を見て、それでも私たちが信者に間違いないければ滅びることなどはありません。ペテロは滅びることなどありませんでした。そのことを覚えて、私たちの基準やさまざまな法則などを捨てて、心から感謝しなければなりません。そして、人間的な面から見ても、人を愛さなければいけないということがわかっている、愛よりは人に対しての憎しみの方がはるかに大きくなってなかなかうまくいかない。人を許さないといけないとわかっているながらも、許すよりは人間的な感情の方が先走ってなかなか自分をコントロールすることができない。他人を理解して、他人のためにと教会から言われてはいるのですが、自己中心的なキャラクターをな

なかなか捨てることができないまま、人間関係がいつも空回りしてしまうという悩みもあります。それから人には言えないでしょうけれども、断ち切れない悪い習慣があるのになかなかそれを断ち切ることができないままずっと繰り返されてる、そのような悩みがあるし、さまざまな失敗といろいろな弱さを私たちは抱えています。それにもかかわらず、私たちが信者に間違いなければ滅びることなどはありません。本当にそうなのでしょうか。本当にそうなのです。今まで私たちは因果応報的な法則しかわかっていませんでした。その因果応報の法則の中に入れ込みますと、必ず罰せられて滅びるしかありません。しかし、信者はこのように失敗をしても弱さを抱えていても滅びることなどはありません。なぜなのでしょう。

2) 当然なことと認め

それは当然なことなのです。その弱さと失敗は良いものではありませんが、当然なものなんだということを受けなければいけません。それは自分の弱さ、失敗、過ちを合理化するものではありません。正当化することでもありません。そういうつもりは1ミリもありません。しかし、そのような弱さと失敗を前にして素直に正直に自分自身と向き合わないといけません。それが自分なのです。そんなはずはないと普段は思っていたでしょうが、それが本来の自分なのです。だから、信者にある弱さと失敗というものは、その内容がどうであれ、だからキリストのほかには希望はありませんということに釘を刺すための材料なのです。偉そうに今まで教わってきた理論や、また世のさまざまな法則などに縛られて判断したり、評価したりしてはいけません。ペテロはとんでもない過ちを犯しました。失敗をしでかしました。それにもかかわらず滅びることなどありません。

3) only キリストへ導くサイン(ガラテヤ 2:20、ピリピ 3:8)

キリストのほかには本当に希望はないんだ。Only キリストの信仰に立たせるための神様の許しなのです。聖書の言葉が聖書に留まらずに、私の告白になるためにあるものなのです。ガラテヤ 2:20 にはこう書いてあります。「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです」。自分からキリストへとシフトしないといけません。そのために許されたものなのです。そして、パウロはこのようにも告白しています。ピリピ 3:8 「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損とと思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています」。そのように告白する信者になるためのプロセスなのです。I コリント 1:29-31 においてパウロはこういうことを言っています。「これは、神の御前でだれをも誇らせないためです」。私たちに誇りになるようなものは一切存在しません。「しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。まさしく、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです」。そのような信者になり、新しく人生をスタートしてもらうために、神様がこのようなプロセスを許されるということをご心に覚えて感謝しましょう。

4) 落胆禁物(弱さは落胆の材料ではない)

ペテロ-落胆-回復/パウロ-すぐに回復(ローマ 7:24-8:2)

なので、どのような弱さがあり、どのような失敗があったとしても絶対に落胆してはいけません。落胆禁物なのです。私たちの弱さ、また、失敗は落胆するための材料ではありません。ペテロは自分の失敗のゆえに落胆してしまいました。それが泣き出したということなのです。そして、だいぶその落胆の期間が伸びて時間が経って、その後イエス様が訪ねて来られて回復することになります。しかし、パウロの場合は同じくこのような弱さを抱えて悩んでいたにもかかわらず、ペテロのように時間をかけてではなくてすぐに回復することになりました。これが私たちに望まれる信仰なのです。ローマ 7:24-25 を見ますと「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです」。ローマ 8:1-2 「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです」。パウロも内容が何か詳しくはわかりませんが、このみじめな人間、死のからだと表現するほど弱さを抱えて、人には言えない自分の内側の弱さ、その悩みを抱えていました。

それにも関わらず、1秒もかからないで「しかし、イエス・キリストに感謝します」と。だから、イエス・キリストなんだと。これが信仰です。今までの世の中の法則にあまりにも慣れている人は、「あれは図々しくないのか？あれは自分の弱さを正当化するような悪ふざけではないのか」とつい思うかもしれません。その人の頭の中には律法が染みこまれているからです。そこから解放されるためにイエス・キリストが十字架で死なれました。なので、信者であればどんなに弱くても、いくら失敗をしても決して滅びることはありませんということを確認して感謝して、この2023年を締めくくるようにしましょう。

2. イエス様をキリストと信じることは全き恵み。

それから、ペテロの失敗を通して、もう一つ感謝しないといけないことは、それが先ほどの話もそうでしょうけれども、世の中で感謝している内容とは次元が全く違う感謝なのです。良いことがあれば感謝、嬉しいことがあれば感謝。そうでなければがっかりする。それはイエス様もおっしゃいました。異邦人もそれはできるものなんだと。あなたがたはイエス・キリストを信じるイエスのいのちあるものではないのか。だから私たちはこの一番弟子ペテロの失敗を通して、今現在、私たちがイエス様をキリストと信じる信仰を持っていることを感謝しましょう。

1) 絶対不可能

なぜかと言いますと、それは絶対不可能なことです。弟子の中で一番弟子だったペテロでさえイエス様に最後まで従うことができませんでした。人間が自分の意志で、自分の努力と頑張りで信仰を維持するということは不可能なのです。イエス様を信じるということはありません。なのに、私たちがペテロより偉いことも何もないのに、今現在イエス様を心から信じているのではないのでしょうか。なんと感謝なのでしょう。これが小さいことではありません。私たちの力、能力、才能、意志などではイエス様をキリストとして信じることは不可能なのです。

2) 全き神様の恵み(I コリント 12:3、I コリント 15:10)

だから今現在、皆さんにどのような状況があり、どのような問題があるにしても、イエス様をキリストと信じている人であれば、それは全き神様の恵みなのです。神の恵みの他にはありません。だから、I コリント 12:3にはこう書いてあります。「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません」。皆さんがイエス様をキリストを主として告白して信じているのであれば、もう既に皆さんの内側に聖霊様が臨まれて働いた結果なのです。自分が何かを悟ってこうなったということは、次の次のお話でありまして、全き神様の恵みなのです。ペテロの失敗を通して私たちはそれを確認することができます。I コリント 15:10を見てもこう書いてあります。「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです」。いま皆さんがイエス様をキリストとして信じているのであれば、皆さんの今現在の状態がどうであれ、その信仰があるということは神に恵まれたという何よりの証拠なのです。

3) 選ばれた自負(エペソ 1:4、1 ペテロ 2:9)

だから大胆にこのように言うことができるわけです。神様に恵まれた人は神様に選ばれたから恵まれるわけです。今現在どんな状況であろうが、どのような問題を抱えてようが、イエス様をキリストと信じる信仰を持っている人であれば、その人は神様に選ばれた人なのです。その自負を持ってこの年を締めくくるようにしなければなりません。エペソ 1:4にこう書いてあります。「すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました」。私たちがそのように選ばれた者なのです。何を根拠にそう言えるのでしょうか。今現在、どのような環境、どういう問題を抱えていようが、イエス様をキリストと信じる信仰を持っていれば、その人は神様に選ばれた人なのです。それを感謝しましょう。悩みごとがたくさんあるでしょうけれども、これを感謝しましょう。そしてI ペテロ 2:9にもこう書いてあります。これは迫害によって散らばっていて、もうこのままではダメなのではないかと悩むくらいの人々に書き送った手紙の内容です。彼らに向かっていろいろなつらいことがあるだろうけれども、「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です」。選ばれ

た種族と。神様に選ばれた人なのです。それを感謝しましょう。

4) 愛されている確信(ヨハネ 3:16、ローマ 5:8、I ヨハネ 4:10)

それは同時に、神様に選ばれたということは神様に愛された、今現在も愛されているということです。だから選ばれた自負をもって神様に愛されていると確信をもってこの一年を締めくくらなければなりません。なぜ神様に愛されていると言えるのでしょうか。いろんな問題があるにも関わらず、イエス様をキリストとして信じているからです。イエス様をキリストとして信じることは絶対不可能なので、神の恵みである奇跡なのです。一番の弟子ペテも失敗しました。なのに私たちはイエス様をキリストとして信じているのではないのでしょうか。これが私たちの悩み問題、すべての状況よりはるかにまさる神様の恵みであり祝福なのです。だから当然、イエス様をキリストと信じる信仰を持っている信者は神様に祝福されたものなのです。愛されて祝福されているもの。ヨハネ 3:16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された」。その愛が私に届いたわけです。ローマ 5:8には、「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」。その愛が私に届いているわけです。なぜそれがわかるのでしょうか。イエス様をキリストとして信じているから。どういう問題が、どのような失敗があるのでしょうか。それは神の愛を天秤にかけるような材料ではありません。イエスをキリストと信じるこの奇跡の主人公であるがゆえに私は神様に愛されているものなのです。I ヨハネ 4:10にはこのような有名な箇所があります。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」。このように愛されたものなのです。これを感謝して一年を締めくくらなければなりません。

5) 祝福された喜び(エペソ 1:3、1 コリント 3:16、エペソ 1:23)

私たちは神様にとっくに祝福されたもの、今も祝福が注がれるものなのです。その祝福の喜びをもってこの一年を締めくくりましょう。パウロは刑務所の中でこの祝福を感謝しました。天にある霊的すべての祝福をいただいているんだと。そして大変な苦難の中でパウロは言います。私の内側に聖霊が宿っている私は神の神殿なんだと。このように祝福されました。神様がともにいらっしゃるのではなくて、内側に宿っていらっしゃる私のいのちとなられました。皆さんを根本からガラリと作り変えられたわけです。そのように祝福されました。だからこそ、私たちのことをキリストのからだなる教会と呼ぶわけです。神秘的な不思議な表現ではないのでしょうか。復活なさって万軍の主となられたキリスト、そのキリストがかしらであり、私たちはそのからだなので、キリストのすべての愛と力と祝福が私を通して流れるように作られているもの、そのようなシステムなのです。そのように祝福されました。これ以上何を望むのでしょうか。何が祝福なのでしょう。ロトに当たると祝福なのでしょう。大学に合格すれば祝福なのでしょう。病気が治れば祝福なのでしょう。それは神社でも訴えていることなのです。2023年、一年を締めくくるその時に、次元の違う異次元の感謝を持って締め括って、新しい年を迎えないといけません。イエスをキリストとして信じていること、これを馬鹿にしてはいけません。これが皆さんの心の中に一番大きな感謝にならないといけません。そして、一番優先的な感謝でなければいけません。奇跡が起こりました。ペテロも倒れているのに、私はイエス様をキリストとして信じています。神の恵みによって選ばれたもの、愛されているもの、祝福されたものに違いありません。なので、これから残りの生涯は、いろいろなことが待ち構えているでしょうけれども、イエス様をキリストとして信じる信仰を第一に、一番大事に、そして優先的に感謝しながら、残りの生涯を歩いて行くことはありませんか。

なので、最後の最後の日にこのようにまとめます。自分を、私たちを落胆させるいかなるものがあったとしても、そのすべての前でそれに負けない、変わらない神様の愛を感謝しましょう。これがクリスチャンです。そして、どんな状況でもイエス様を信じる信仰を先に感謝しましょう。これが霊的な戦いなのです。そして、その感謝の信仰に立って御座の祝福が具体的に現れる 2024年、空前絶後の答えが待っている 2024年、自分の現場に暗闇が砕かれて伝道の門が開かれる、つまり、契約が成就される 2024年を楽しみにして希望を持って 2023年を締めくくりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今、礼拝を捧げる兄弟姉妹に御座の祝福を豊かに注いでください。イエスがキリストと信じるこの福音の信仰こそ幸せであり、祝福であることを改めて確認して、心から感謝することができるように働いてください。それでどのような問題、心配、環境、状況であろうが、それを超越できる力を得ることができるように聖霊様が豊に豊かに働いてください。何も縛られることなく感謝を持って締めくくり、来たる 2024 年、本当に神の契約が成就する希望の年として信じて楽しみにし期待をもって迎えることができるように、今日の日を豊かに豊かに祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン。